

新春の候、ようやく正月気分が抜ける頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

今年もほつとたいむ通信をお楽しみいただければ幸いです。



「友のためにつくす」

『佐賀のがばいばあちゃん』（徳間書店）がベストセラーになっている島田洋七さんの中学生の頃の話です。

中学三年生のとき、野球部の同級生が修学旅行に行かないという話を聞いた彼は、

「どうして、修学旅行に行かないんだ」

とたずねます。同級生は、

「俺の家は貧乏だから、行けない」

と寂しそうに話しました。

何とかしてあげたかった彼は、野球部のみんなでアルバイトを始めます。学校でアルバイトは禁止だったので、先生に見つからないように働いたそうです。

みんなで一生懸命に働いた結果、修学旅行に必要なお金を集めて同級生に渡すことができました。しかし、当日、同級生は修学旅行に来ませんでした。

彼が、

「どうして、来なかったんだ」

と怒ると同級生は、

「みんなが必死で働いてくれたお金を、自分のために使うわけにはいかなかった。これをみんなで使ってくれ…」

と言って、みんながくれたお金で買った新品の野球道具を渡しました。

卒業式で校長先生が、

「卒業生の中に、学校で禁止していたアルバイトをしていた人たちがいる。とんでもないことだ。けれども、彼らは自分のために働いたんじゃない、友達のために働いた。私は彼らがこの学校の卒業生だということを誇りに思う」

と挨拶をしました。

自分のために一生懸命になることができて、人のために自分の時間を使える人はなかなかいないと思います。



今は昔よりも金銭面では豊かになりましたと思いますが、人の心は豊かになっているのだろうか。

自分を支えてくれる友人は大切にしたいですね。

「小さな幸せに気づく24の物語」より抜粋

株式会社 三悦

代表取締役 樋田 浩三

令和二年一月